



（支援記録 2024.10.11）「～と思う」文型の練習を簡単に答えた。自分の考えを記入する欄でも、比較的整った形で文章を記入することができた。  
また読解問題では、読みと語彙理解ができれば、内容理解に問題はないことが分かった。

（支援記録 2023.10.20）今までより長文の読解問題だったが、音読させて、分からない言葉や部分は解説してから問題を考えさせた。するとほぼ完全に正解を答えることができた。

## 2.4 学習（授業内容）支援

支援を進める中で、英語が本人にとって最も理解しやすい言語であることがわかったので、複言語（日本語と英語）を使って、本人が希望する定期試験用の授業プリントの復習を行なった。

（支援記録 2023.7.7）授業プリントを読み、漢字にフリガナをふり、理解できていない語句を解説（英語で説明し英語を脇に記入）した。「条約改正交渉」は、「条約=treaty、改正=reform、交渉=negotiation」と説明していくと、「OK」などと答えていた。

授業内容の理解向上によって、2年生後半頃から成績が向上し、Aの勉強への意欲が向上した。

（支援記録 2024.7.5）「（試験が）35点ならいいじゃない」と私が言うと、「悔しいです」とA。私「歴史は1年の時は10点とかじゃなかった？」。A「そうですが、悔しいです」。

## 2.5 会話

複言語の会話により筆者とAとの関係性が深まる中で、勉強以外（特に友人関係）に関する会話が増え、それがAの発話の積極性を高めていった。

（支援記録 2024.6.7）「他にニュースはありますか？」と聞くと、次々と友人の「恋ばな」を始めた。そして今までにないほど、長時間（約30分）かつ積極的な発話が続いた。

## 2.6 学校生活

授業を含めた学校生活全般に対して、本人の積極性が増し、（日本人生徒を含めた）広く安定した人間関係を結ぶようになった。

（筆者との会話での担任の発言 2024.7.12）以前に比べて、積極性が増して友達ともよく話すようになっています。色々な仕事を引き受けてくれるし、部活（軽音部）も一生懸命で、文化祭でしっかり演奏しました。

## 3. 結果と考察

当初学校からは学業不振と認知の問題の可能性を指摘された。しかし支援の中で、Aの学習困難の原因は、日本語能力、特に漢字の読みと理解の不足であることがわかった。そこで、学習段階を遡ったスモールステップでの学習を実施し、漢字学習が徐々に進むようになった。

小さな成果を積み上げることにより、Aは学習に対する自信や意欲を取り戻していった。また筆者との複言語によるやり取りは、授業内容の理解と同時に、自分の内面を伝えやすくなり、筆者との関係性の深まりや、活発な発話につながっていった。

授業内容の理解が進んだことにより成績が向上し、それによって授業や学習全般に対する意欲が向上し、これらと同時に、友人関係や部活など、学習以外の学校生活全般においても、より積極的な姿勢が見られるようになった。

表1 筆者によるAのバンドスケール見立て

一方で、基本的な文法事項の定着は十分でなく、発話の正確さや理解できる構文が限られ、授業や学校生活における困難は残っている。

	聞く	話す	読む	書く
2023年7月	4	3~4	3	2~3
2024年7月	4	4	4	3~4
2024年12月	4~5	4~5	4	4

それでも、学校の支援により卒業後の就職先も内定し、将来にむけて前向きに歩んでいる。